

あらう。又古代史執筆者中に英國に於けるバビロニヤ研究者中の King さまいふべき L. W. King の名の見えぬことはなんざいつても物足りない。しかもそれが長逝のためなることは一入寂莫の感を深うせしむ。【中原】

●京師帝國大學文學部
考古學研究報告第九冊 豊後磨崖石佛の研究

文學博士 濱田 耕作著

近時、考古學的研究調査の範圍が頗る擴大されてきたが従來、考古學的調査云へば古墳や石器時代のそれに限られ、而かも或は先史云ひ、或は原史と稱し、其の限界を固守するの感があつた。況んや歴史時代に於ける美術的遺物の如きは美術史家の取扱ふべきものとして顧みるものゝ少かつたことは此れ全く悠久な時代を區劃的に截斷し、其の個々は或は人種學者、或は考古學者、或は美術史家の夫れ々々究明すべきものゝ範圍を想定し互に遺物研究の脈絡を缺いて居たからである。されざる史以前より以後に互る遺物の連關は決して偶發的のものではなく、原始云ひ、優秀云ひそれは取扱ふものゝ見

解に過ぎない。されば歴史時代究明の史家が所謂考古學的遺物を取扱つてヨリ良き解明を與へるものもあらう。これと同様に考古學者が美術史家の取扱ふものを見て史家の推察し得ぬものを解答し得るものもあらう。斯くて近時、此種の研究調査の範圍が擴大されて來たことは獨り史界の幸福のみではなからう。斯かる意味に於て今次刊行せられた「豊後磨崖石佛の研究」は考古學的遺物調査の基礎に築かれた美術的遺物の調査研究であつて、考古學的研究調査の範圍が決して古墳や石器時代に限定せらるゝものでなく却つて其の調査研究の方法は美術史家と相連關して完全を期すべきことが判らう。本冊は本文五章に分ち、石佛分布の主要地である大分市上野元町、大分郡種田村、大野郡管尾村、臼杵町深田の四章に別ち各章は更に各節に分つて一々の像群及諸像の製作年代と美術的價值を叙し、第五章は後論として石佛造像の特質、作者と時代、様式觀、支那朝鮮の石佛との關係、石佛製作の基礎等を論じ卷末に豊後地方石佛地名表を附されてゐる。以上本文約百五十頁に及び挿圖約五十を以てし、

圖版八十葉には諸群像を細大もらさず示されてゐる。單に此の圖版のみを以てしても其の美術資料として讚美するに充分であらう。今本冊の内容を一々紹介することに到底卒爾には盡しがたい。しかも著者と同教室にあつて其の刊行に至る迄約二歳に至る著者の苦心を想到する時は到底皮相の紹介をなすに忍びない。茲には單に考古學者である著者が斯かる美術的遺物に接するに如何なる態度を以てせられたかの二三に就いて記して見よう。群像の平面圖を作成し一々の圖版と相應じて其の觀取を容易ならしめ、諸像の時代觀を想定する爲めに吾が代表的諸像と共に其の側面線を表示せること、傳説に對するに遺物を對稱させる様式觀等の外、最も主要すべき諸像製作の對稱になつてゐる石材即ち凝灰岩の分布に、此の岩石を利用して作成されてゐる剝抜き石棺、裝飾古墳の石材、筑後肥後の石人石馬、或は横穴古墳等の所謂、考古學的遺物と關聯せしめたることは著者にして始めてなされるべきものであらう。而かも此の石材に加作する技巧が現時石工の使用するものより類推して其の土俗的系統を

明らかにし、而して石佛彫刻が木彫と同様手法に出たものであらうとされてゐることなき特に興趣を覺えるものである。要するに阿蘇火山帶の噴出せる凝灰岩が古墳横穴石人石馬を生み磨崖石佛となり降つて墓碑になり穹窿橋となり、皆な時代の好尚に應じ、其の鐫刻に變現を與へるものと云へる。其他諸石佛の手法年代を或は經典に或は隣國の諸佛に求めて想定さるるものもあつて單に一國聖後の石佛研究に止るなく吾が國の石佛研究に取つて一大基範を與へられるものと云へる。(岩波書店發行、價一二・〇〇)

● 京都府史蹟勝地調査會報告第六冊

京都府發行

本冊に載するもの同府下の各郡に亙り竹野、中、北桑田各郡發見の史前遺蹟遺物より加佐、與謝、南桑田、相樂各郡の古墳、其他經塚寺址等に及び各項夫れく調査委員の責任を明にされてゐる。本冊中に於て出色すべきものは法勝寺址、安樂壽院等の研究であらう。法勝寺

彙報

は白河帝の承暦年間の創立であつて山水の勝形を選んで營まれた淨界であり、或は「榮花物語」に或は「法勝寺供養記」等に其の平安期の優麗を物語つてゐるものの創建以後の興廢を詳述されてゐる。又た安樂寺院も洛南の一勝區たるを文献と相待つて現影せしめてゐる。斯かる史蹟調査は從來のものに其の趣きを異にししかも文献と遺物を兩立せしめて其の當時を構圖せしむることは最も適切なる史的研究と云ふべきものである。本府調査委員諸氏の各自專攻を融合せる處に本冊の面目が窺はれる。

(四六倍判本文一六〇頁、圖版五五)【以上島田】

●京都帝國大學文學部史學科研究旅行

三浦西田兩教授指導の下に伊勢地方に研究旅行を行ふ爲め一行十四名、去る六月六日の朝細雨降りしきる中に京都驛をたつたが近江路に入るに輝かしい日光が車窓を訪れて無類の好日和となつた。山田に下車した時は正午を少し過ぎて居たが態々出迎へられた森田神宮皇學館教授の東道で先づ徵古館を見學する前に事務所の一室で加藤館長から特に蒔田文書を見せられた。柴野栗山、藤井貞幹等の知名の學者の書牘が其主なるものであつた。本館の方では文書として既に著聞されてゐる角屋文書光明寺殘篇等の外に開國主義者といはるゝ井伊直弼が嘉永七年十一月に納めた攘夷祈願文の存在は一種の皮肉であつた。繪畫には伊勢新名所歌合等武器には稻富一夢所持鐵砲等があり其他古銅印及印笥、壺鐘日本丸船首等が目を引き。土器の中では革袋を模したものが二つその一つは